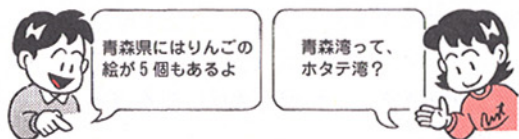


尼崎市立浜田小学校 河合康一

1. 食べ物はどこに？

地図帳には、さまざまな情報が詰まっている。子どもにとっては、その情報量の多さに、かえって戸惑ってしまい、うまく使いこなせないでいることが多い。しかし、視点をはっきりもった上で地図帳を見ていくと、数多くの情報の中から、自分の探している情報が浮き上がって見えてくるときがある。たとえば、5学年の食料生産の単元を学習するとき、「地図帳の中から食べ物を探してみよう」と問いかけてみる。すると、今まで何気なく眺めていた地図の中から、さまざまな食べ物のイラストが目飛び込んでくる。「あ、こんな所にピーマンを見つけた」と得意気に発表してくれる子どもがでてくる。そして、「なぜかな？」と発展していく。



2. 郷土料理を考えよう！

日本全国、さまざまな地域でいろいろな食べ物を見つけていくうちに、その地域の特産物に気づく児童が出てくる。

そういう特色のある県をいくつか発表させた後、「では、その県でとれるものを使って、その県ならではの料理を考えてみよう」と提案する。その県の中に描かれている食べ物を食材にして、好き勝手に郷土料理をつくってしまうのである。初めは何

も思いつかない子どもも、「きちんとした料理にならなくてもいいから、自由に考えよう」と助言すると、いろいろとネーミングを考えながら、ユニークな料理を考え始めた。



3. どの料理？（県名当てクイズ）

子どもが自由に考えた郷土料理が出そろうと、県名は隠しておいて、料理名だけを一人ずつ発表させる。そして、今度は、友だちが考えた料理名を見て、それが何県の名物なのかを考えるのである。その際、その料理で使った食材をレシピ風にしき添えておくと、県名を考えたときのヒントになる。たとえば「材料…りんご7個とホタテ貝7個」とあれば、その絵が載っている県を地図帳から探し出せばよいのである。さらに、地図帳の後ろのほうに掲載されている統計資料を活用すれば、その食材が多く生産されている県がわかるので、いくつかの県に絞って探すことができ、効率よく見つけられる。

4. 5年O組版「グルメマップ」

その郷土料理が何県名物なのか、正答が出るごとに、白地図のその県のところへ、その料理名を書き込んでいく。すべての料理が白地図に書き込まれると、「グルメマップ」の完成である。次に、その地図を見ながら、気づいたことを発表していく。「りんごを使った料理は、日本の中で北のほうの県に多いなあ」などの感想が出てくれば、そこから学習課題を設定して、さらに地図帳で詳しく調べさせていき、気候や地理的条件などについて考えさせることもできるのである。